

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（9月号）

1. JAグループ鳥取の取り組み

① 協同組合学習会 初開催

鳥取県協同組合連絡協議会は16日、鳥取市の白兔会館で協同組合学習会を初開催した。JA、生協、漁協、森林組合、中国労金、ワーカーズコープなど20人の職員が参加した。



協同組合の活動や事業においても協同組合間の連携を深め、発展させていくため同じ協同組合組織に働く者同士が集い協同組合理念を学び、仲間づくりを通じて地域貢献に資する取り組みを構築することが必要となっていることから、更なる協同組合間連携の強化を目指すため、協同組合学習会を開催した。

学習会では、日本協同組合連携機構（JCA）協同組合連携部の中野理研究員を講師として招き、「ICAソウル大会から『協同組合のアイデンティティ』へ」と題して講演。また、「協同組合とは何か、どうあるべきか」というテーマに沿ってグループ討議を行い各組合が交流を深めた。

② 鳥取大学の学生有志で構成する団体へ食料支援

地場産プラザ「わったいな」は、鳥取大学の学生有志7人で構成する団体へ食料支援を始めた。売れ残りなどで販売できない農畜産物を無償で提供し、コロナ禍で生活に困窮する学生生活をサポート。わったいなで販売する農畜産物の廃棄ロス削減や学生のアルバイトの確保につなげたい考えだ。

鳥取大学農学部の2回生で、学生ボランティア団体「砂丘の恵みの納品依頼」の代表を務める佐野将大さん（19）はわったいなの駒井幸恵店長に農畜産物食料支援物資の提供を依頼し、佐野代表らの取り組み内容に賛同したのがきっかけ。

食料物資の提供は、佐野代表らが月に1回、わったいなを訪れ、農畜産物を回収し、毎月第4土曜に学生に農畜産物などの食料支援を行う。



2. 大山乳業農業協同組合の取り組み

令和3年度良質生乳出荷者表彰伝達式を開催

中国地区で年間を通じて良質な生乳出荷者を表彰する「良質生乳出荷者表彰伝達式」が7月20日に開催され、大山乳業生産者17名が「ホルスタイン部門」で受賞した。

受賞者は昨年より増加しており、「世界情勢、日本経済、酪農業界においても厳しい状況に負けず、おいしい牛乳と言っていただけのような生乳出荷を続けていく」と話した。



3. 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

「鳥取みんなのつながり和牛」初出荷

「鳥取みんなのつながり和牛」が6月6日に無事初出荷となった。6月20日～24日にはコープしがの組合員さんに配達され、以降は半年間の定期購入で届けられる。

7月はコープしがの店舗で半頭を試験販売、8月から毎月1頭の販売が正式に開始され好評をいただいている。

鳥取みんなのつながり和牛は、生産者(みんなの牧場)と農協(とりちく)と生協(コープしが)の三者が協力して、お手頃価格の和牛を消費者に届ける取り組みである。コープしがによるみんなの牧場への出資やとりちくとの預託方式等によりお手頃価格が実現したもの。

この取り組みを通じて、牛乳生産と哺育や肥育のしくみについて、消費者にさらに理解を広げていく。



4. JA全農とっりの取り組み

① 野菜広域センター「初夏ブロッコリー」選果実績

2年目を迎えた野菜広域センターの令和4年度初夏ブロッコリーの取扱いは、申込数量並びに前年選果実績を上回った。降雨が少なく干ばつ傾向で推移したため、一部の作型、品種で生育遅れの発生や圃場によっては病害虫の発生による品質低下がみられたものの、日量1,500コンテナ程度の安定的な入荷となった。更に5月末から6月中旬にかけては最大2,593コンテナの入荷があった。

平均買取価格は、2,028円/6kg箱となった。(単位：6kg/箱)

初夏どり申込数量	選果実績	申込比	前年選果実績	前年比
113,877	126,482	111%	89,676	141%

② 「鳥取二十世紀梨」シーズン到来

大阪市中央卸売市場並びに東京都中央卸売市場本場にて「鳥取二十世紀梨」販売セレモニーを開催した。実に3年振りに産地から直接市場に出向いてのPRとなった。

また、9月5日には首相官邸にて岸田文雄首相に「二十世紀梨」と「新甘泉」を贈呈した。



5. JA鳥取信連の取り組み

担い手コンサルティングの取り組みについて

信連は、第50回 JA 鳥取県大会の決議事項のうち「大規模な担い手への対応強化」を重点取組施策として、JAの担い手コンサルティングの取り組みについて農林中央金庫・外部コンサルタント会社と連携しながら支援している。

本取り組みは、JAの営農経済・信用部門が連携して、コンサルティング先である大規模農家担い手と対話をしながら、経営課題を具体的に可視化(見える化)し、課題についてソリューションを提案するものであり、現在まで令和3年度3件、令和4年度2件を実施した。

また、各コンサルティング先において、今後3年間にわたり、提案したソリューションの効果額(付加価値向上額※)を決算書等から可視化して、本取り組みにかかる目標実績管理を行う予定であり、ソリューションの実践について引き続きコンサルティング先をフォローアップする予定である。

※付加価値額＝営業利益＋減価償却費＋人件費

6. JA共済連鳥取の取り組み

「交通安全啓発用品」を鳥取県交通対策協議会へ贈呈

秋の全国交通安全運動に先がけて9月5日鳥取県庁において「自転車ヘルメット30個」・「LEDネックライト2,000個」・「反射材付き手袋2,300個」を鳥取県交通対策協議会（会長：平井伸治知事）へ贈呈した。

贈呈式では、JA共済連鳥取の影井運営委員会会長が「秋の全国交通安全運動にあわせて、交通事故未然防止に役立てていただきたい。」と挨拶した後、同協議会会長の平井知事へ目録の贈呈を行った。



贈呈した「自転車ヘルメット」は運転免許証を返納した高齢者で自転車を利用される方に贈呈し、「LEDネックライト」および「反射材付き手袋」は、歩行者の事故防止の啓発として各市町村を通じて交通安全運動期間に地域住民へ配布される。

JA共済連鳥取では、平成22年から交通事故撲滅を目指す活動の一環として、同協議会を通じて学生や高齢者等へ交通安全啓発用品を贈呈し、交通事故の未然防止に取り組んでいる。

自動車ヘルメット



※運転免許証を返納した県内在住の高齢者で自転車を利用される方に抽選で進呈いたします。

LED ネックライト



※点灯点滅式で、夕暮れ時や夜間の事故防止に役立ちます。

反射材付き手袋



※クローバー型高輝度反射材付きで交通安全にも役立つスマホ対応手袋です。

以上